

平成28年度 学校自己評価表（計画段階・実施段階）

Table with columns for 'School Management Policy', 'School Operation Plan (4 months)', 'Evaluation (3 months)', 'Evaluation Items', 'Specific Objectives', 'Specific Strategies', 'Evaluation (3 months)', and 'Next Year's Main Tasks'. It details various school activities, goals, and evaluation criteria across different departments like teaching, information, student guidance, health, and career.

部		希望進路実現のための模擬試験の有効活用	目標の設定や目標達成のための具体的な計画を作成し、事前指導の充実を図る。	A	A		等が行える時間をしっかりと確保していく。 ・デジタルサービスを生徒に事後指導で活用させ、振り返りや課題の克服、新たな目標設定などをより効果的に行っていく。	
			振り返りや課題の克服、新たな目標設定、教科担当者面談などを実施し、事後指導の充実を図る。	A				
			効果的な事後指導につなげるため、分析会を実施する。	A				
				A				
広報課		本校の魅力ある教育活動（特進クラス、指定強化部、進路・部活動の実績等）の積極的な広報と、入学希望者の質的、量的な向上	本校の生徒の魅力を中心に夏秋2回の体験入学を実施する。	A	A	A	(1)中学生体験入学 ・職員間の事前打合せや生徒への細やかな指導ができる体制の構築を図る。 (2)情報発信 ・情報課やファッションデザイン科と連携し、定期的に情報発信を促すような仕組みを作る。 ・在校生が、出身中学校へ向かって担任や顧問への挨拶や中学生への部活動のアドバイスを行うといったような取り組みについて、時期・時間等を教務や中学校と連携・調整し、進めていく。	
		中学校や地域社会における本校の認知度の向上	情報課と連携を図り、ホームページの改良と改善を図る。	A				
			ホームページや香椎駅掲示板を最新版に更新する。	A				
			中学校に学習ボランティアを派遣し、本校の魅力を中学生にアピールする。	A				
	本校の校風や生徒の魅力（生徒会や部活動）を全面に出した広報を通じた好感度の向上	マスメディアを通じて、明るくさわやかな本校生徒のPRを実施する。	A	A	A	(3)学校案内 ・早期に着手してアイディアを出し合い、昨年度より良いものを作成する。		
		生徒が出身中学校を訪問し、恩師への挨拶や部活動への参加・指導を行う。	A					
		在校生の意見を踏まえ、中学生が興味を惹き関心が高まる学校案内を作成する。	A					
			A					
研修・庶務部	研修課	授業改善につながる研究授業・公開授業の実施	教科会議での協議を踏まえた公開授業を実施する。	A	A	A	(1)公開授業の整理 ・第2回の授業アンケート最上位者による公開研究授業が効果を上げていることをうけ、第1回については、若手教員育成の観点で実施できるように計画する。 (2)人権教育で取り扱う内容の精査 ・さまざまな人権課題について取り扱うことができるように、人権教育推進委員会を中心に検討を行う。 (3)海外研修の実施に向けた検討 ・国際交流事業の実施や留学希望者の増加をうけ、希望者によるアメリカ西海岸などでの研修旅行の実施を検討していく。	
		校内・校外職員研修の充実・発展	校内職員研修の体系化を図る。	A				
			専門研修等への積極的な参加と全職員への還元を図る。	A				
			先進校（SPH・観点別評価・AL・ICT活用等）への視察を実施し、その還元を図る。	A				
	人権教育および図書教育の充実・発展	全教科・全領域における人権教育を推進する。	A	A	A	(1)保護者や地域との連携 ・eメッセージやHPを更に活用し、地域、PTAに学校行事等への参加を促す。 (2)防災避難訓練 ・実施要項を改良し、十分に打ち合わせを行うことで、職員・生徒に防災意識の徹底を図る。 (3)学校要覧 ・早期に着手し、校正を入念に行い、不備なく1学期はじめに発行する。		
	人権教育特設授業の内容の見直しと展開方法の工夫を行う。	A						
	百人一首かるた大会運営の質の向上に取り組む。	A						
		A						
	庶務課	伝統校にふさわしい式典の実施	生徒に式典の意義と必要とされる態度を理解させる。	A	A	A	(1)ALを利用して、自ら進んで学習する意識の向上を図る。また、学習習慣を定着させる。 (2)諸先輩が築いてきた伝統を当たり前ものと思うことなく引継ぎ、更なる発展を促す。 (3)あらゆる機会を利用してモラル教育を実施する。また、ゼロトレランスを徹底し、その場の指導にとどまらず、できるまで指導し続ける。また、できている生徒に対しては、更に高い目標を設定する。 (4)総学で実施しているプログラムの意義を再認識させ、進路意識の更なる向上を図る。	
	教育活動に関する文書（学校要覧等）の確実な発行	係の役割を明確にし、全職員が実施・運営に携わるようにする。	A					
	危機管理に対する意識の向上	余裕を持って作成に取り掛かり、より多くの人員で内容の検討と校正を行う。	A					
		文書に対する意見・要望を集め、改善に役立てる。	A					
学年部	1学年	自ら考え、行動できる生徒の育成	部活動への積極的な加入を促し、その活動を支援する。	A	A	A	(1)ALを利用して、自ら進んで学習する意識の向上を図る。また、学習習慣を定着させる。 (2)諸先輩が築いてきた伝統を当たり前ものと思うことなく引継ぎ、更なる発展を促す。 (3)あらゆる機会を利用してモラル教育を実施する。また、ゼロトレランスを徹底し、その場の指導にとどまらず、できるまで指導し続ける。また、できている生徒に対しては、更に高い目標を設定する。 (4)総学で実施しているプログラムの意義を再認識させ、進路意識の更なる向上を図る。	
			校内における縦横の関係を意識させながら、学校行事に取り組みせ、自分がリーダーになる姿を想像させる。	A				
			自らの将来像に沿って学習できるよう支援する。	A				
			ゼロトレランスを徹底した上で、自由幅を拡大する。	B				
		高校生として相応しい挙措動作の定着	正しい言葉遣いや、いつでもどこでも誰にでも爽やかな挨拶ができる生徒を育成する。	A	A	A	(1)ALを利用して、自ら進んで学習する意識の向上を図る。また、学習習慣を定着させる。 (2)諸先輩が築いてきた伝統を当たり前ものと思うことなく引継ぎ、更なる発展を促す。 (3)あらゆる機会を利用してモラル教育を実施する。また、ゼロトレランスを徹底し、その場の指導にとどまらず、できるまで指導し続ける。また、できている生徒に対しては、更に高い目標を設定する。 (4)総学で実施しているプログラムの意義を再認識させ、進路意識の更なる向上を図る。	
		他者への思いやりを持ち、適切な人間関係を構築させる。	A					
		キャリア教育の充実	「総合的な学習の時間」で様々な職種を調べ、それぞれの社会的役割を知り、自己との関わりに気づかせる。	A				
			プレゼンテーション活動を通して表現力を身につけると共に、情報を共有して視野を広げさせる。	A				
			ICT機器を活用した、「調べ」「報告」活動を促進する。	A	A	A	(1)学校生活のあらゆる場面において、最上学年として相応しいリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。また、校外活動においても香椎生としての誇りと自覚を持ち、学校の代表として相応しい行動ができる生徒を育成する。 (2)総合的な学習を通じてロールモデルとしての「人の生き方」について学び、自己の適性と社会的役割や使命について考えさせ、主体的に進路を選択させるとともに多種多様な生き方や職業観を理解し、尊重できる生徒を育成する。 (3)自分の将来について長期的かつ明確な進路ビジョンを持ち、自己実現に向けて主体的に学ぶとともに、生涯にわたって自己教育を継続できる生徒を育成する。	
			総合的な学習での活動が、その場限りのものではなく、進路選択の助けになるよう支援する。	A				
			礼節をわきまえ、相手の状況に配慮した適切な行動ができる生徒を育成する。	A				
			先を予測し、安全かつ計画的に行動できる生徒を育成する。	A				
		香椎生としての誇りを持ち、学校の代表としてふさわしい行動ができる生徒を育成する。	A	A	A	(1)学校生活のあらゆる場面において、最上学年として相応しいリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。また、校外活動においても香椎生としての誇りと自覚を持ち、学校の代表として相応しい行動ができる生徒を育成する。 (2)総合的な学習を通じてロールモデルとしての「人の生き方」について学び、自己の適性と社会的役割や使命について考えさせ、主体的に進路を選択させるとともに多種多様な生き方や職業観を理解し、尊重できる生徒を育成する。 (3)自分の将来について長期的かつ明確な進路ビジョンを持ち、自己実現に向けて主体的に学ぶとともに、生涯にわたって自己教育を継続できる生徒を育成する。		
		何事に対しても積極的にチャレンジし、意欲的に取り組む姿勢を身に付けさせる。	A					
		学校行事や部活動を通じてリーダーを育成する。	A					
		学習の意義を理解し、自己の目標達成に向かう自主的な学びを促す。	A					
		生徒情報の共有を強化し、生徒の活動を学年全体で支援する体制をつくる。	A	A	A	(1)学校生活のあらゆる場面において、最上学年として相応しいリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。また、校外活動においても香椎生としての誇りと自覚を持ち、学校の代表として相応しい行動ができる生徒を育成する。 (2)総合的な学習を通じてロールモデルとしての「人の生き方」について学び、自己の適性と社会的役割や使命について考えさせ、主体的に進路を選択させるとともに多種多様な生き方や職業観を理解し、尊重できる生徒を育成する。 (3)自分の将来について長期的かつ明確な進路ビジョンを持ち、自己実現に向けて主体的に学ぶとともに、生涯にわたって自己教育を継続できる生徒を育成する。		
		自分の能力・適性に合った将来像を持つ生徒の育成	総合的な学習を通じて自己の適性を認識させ、将来の明確な進路ビジョンを持たせる。				A	
			探究学習の成果を発表することで表現力を磨き、コミュニケーション能力をさらに向上させる。				A	
			自己の適性に合った大学・学校・職種等の研究を行い、主体的な進路選択を促す。				A	
		希望進路の実現	観点別評価やアクティブラーニングの充実や授業アンケートの活用を通じ授業の質を向上させる。	A	A	A	(1)主体的な行動並びに協働的な活動を行うことができ、かつリーダーシップも高めることができる学校行事、例えば体育祭や文化祭を通して、卒業後のキャリアでも必要とされる様々な能力を高める。また、受験勉強にもその磨いた力を発揮させるよう粘り強く指導する。 (2)生徒の希望進路合格を達成するために、授業毎に生徒の学力を積み重ねていく。その際、必要に応じてICTを活用する。また、希望進路に向けて最後まで粘り強く努力できるように平日頃講話を行うと同時に、模試指導も充実させる。観点別評価やアクティブラーニングを高く評価してくれる入試制度を持つ上級学校に関する情報も集め、生徒の進路希望実現に役立てる。	
		選択希望制課外授業、習熟度別課外授業を実施するとともに、模試指導を充実させる。	A					
		朝礼前や放課後、長期休業中に主体的に勉強する環境を整える。	A					
		リーダーシップの育成	文化祭や体育祭、部活動等で最上級生、後輩の手本として、リーダーとしての役割を主体的に果たすよう指導する。	A				
			学校行事等で培ったリーダーシップを、クラスや学年の進路実現、卒業後の社会貢献に向けても発揮させるよう指導する。	A	A	A	(1)学習評価・カリキュラムマネジメントの充実を図るために、次年度担当者が、今年度作成した授業内容・評価の記録表を参考に評価予定表を作成し授業に取り組むことで、教員のチーム力を強化する。 (2)SPH1年目に引き続いての学習プログラムの開発に伴い、客観的な評価方法の確立と、アンケート等調査の改善のために、評価から始めるマネジメントサイクルの実施による課題の共有化や、情報管理環境の整備、情報の共有化に努める。 (3)教員のスキルアップのために、SPHの各事業の取組や社会人招聘事業については、担当者以外の教員も積極的に参加することにより、横断的視点で自身の担当の科目、SPH事業に取り組むようにする。また、研修会への参加、産業界・異校種との交流を積極的に行う。 (4)共通教科「家庭」において専門科目「家庭」（ファッション分野）を活かした教育内容の充実を行うとともに、教員の専門性（衣食住・保育など）を発揮できるようにすることで、共通教科「家庭」及び家庭クラブ活動を充実させる。	
		社会貢献力の向上	主権者教育を様々な場面でを行い、社会において果たさなければならない使命を自覚させる。	A				
			毎朝、挨拶指導を行い、自主的に明るく挨拶ができコミュニケーションが取れる力を養成する。	A				
				A				
		服飾デザイン科	S P H研究の推進（高度な資質・能力を身に付けた専門的職業人の育成）	産業及びビジネスとしての視点からファッションを学ぶ「福岡発ファッションイベント実習」プログラムを開発する。	A	A	A	(1)学習評価・カリキュラムマネジメントの充実を図るために、次年度担当者が、今年度作成した授業内容・評価の記録表を参考に評価予定表を作成し授業に取り組むことで、教員のチーム力を強化する。 (2)SPH1年目に引き続いての学習プログラムの開発に伴い、客観的な評価方法の確立と、アンケート等調査の改善のために、評価から始めるマネジメントサイクルの実施による課題の共有化や、情報管理環境の整備、情報の共有化に努める。 (3)教員のスキルアップのために、SPHの各事業の取組や社会人招聘事業については、担当者以外の教員も積極的に参加することにより、横断的視点で自身の担当の科目、SPH事業に取り組むようにする。また、研修会への参加、産業界・異校種との交流を積極的に行う。 (4)共通教科「家庭」において専門科目「家庭」（ファッション分野）を活かした教育内容の充実を行うとともに、教員の専門性（衣食住・保育など）を発揮できるようにすることで、共通教科「家庭」及び家庭クラブ活動を充実させる。
			世界水準デザインや世界から見た日本を学ぶ「世界のファッション文化を学ぶ海外研修」プログラムを開発する。	A				
			伝統工芸等の価値及び美の文化を学ぶ「郷土の一級品に触れる実習・体験活動」プログラムを開発する。	A				
			ファッションに関する英語を理解しアウトプットできる力を育む「English for fashion students」プログラムを開発する。	A				
		授業方法とカリキュラムマネジメントの充実	学習内容に応じたICTの活用法の検討やアクティブラーニング形式の授業効果の検証と改善を図る。	A	A	A	(1)学習評価・カリキュラムマネジメントの充実を図るために、次年度担当者が、今年度作成した授業内容・評価の記録表を参考に評価予定表を作成し授業に取り組むことで、教員のチーム力を強化する。 (2)SPH1年目に引き続いての学習プログラムの開発に伴い、客観的な評価方法の確立と、アンケート等調査の改善のために、評価から始めるマネジメントサイクルの実施による課題の共有化や、情報管理環境の整備、情報の共有化に努める。 (3)教員のスキルアップのために、SPHの各事業の取組や社会人招聘事業については、担当者以外の教員も積極的に参加することにより、横断的視点で自身の担当の科目、SPH事業に取り組むようにする。また、研修会への参加、産業界・異校種との交流を積極的に行う。 (4)共通教科「家庭」において専門科目「家庭」（ファッション分野）を活かした教育内容の充実を行うとともに、教員の専門性（衣食住・保育など）を発揮できるようにすることで、共通教科「家庭」及び家庭クラブ活動を充実させる。	
			各科目間、同一科目の学年間の有機的連携につながる観点別評価に取り組む。	A				
			教科を超えた横断的視点から専門教科「家庭」の深化を図る。	A				
			共通教科「家庭」で習得した知識と技術を学校や地域の中で生かせるよう家庭クラブ活動の充実を図る。	B				
		広報活動の充実	出前授業・出前授業・ホームページ等を通して、SPHの取り組み等について情報発信する。	A	A	A	(1)観点別評価の改善とさらなる充実に取り組み、教科横断的視点によるカリキュラムマネジメントの充実を図る。特に、生徒の意欲の向上に結びつく日常の評価活動の工夫・改善に取り組んでいく。また、面談や講演会にあたっては、ねらいを明確にした事前・事後の指導を充実させる。 (2)展示会やファッションショー等の学習成果を発表する場をさらに充実させるとともに、産業界との連携を通して外部の大人たちと接する機会を多く設定する。また、海外研修に向けて語学力と表現力の育成に努める。 (3)生徒会活動や学校行事の充実・改善に取り組み、他者を尊重できる態度を養う。また、社会貢献活動に積極的に参加させる。	
			小高連携・校外ファッションショー等、校外における生徒の発表・コミュニケーションの場を設定する。	A				

評価項目	学校道徳教育重点目標	具体的方策			
道徳教育等	豊かな知性と健やかな心と体、豊かな人間性と高い倫理観を育て、社会や国・地域の発展と活性化に貢献しようとする「志」ある人間の育成を目指す。	観点別評価の改善により、更なる生徒の意欲等の喚起を図る。	A	A	(1)観点別評価の改善とさらなる充実に取り組み、教科横断的視点によるカリキュラムマネジメントの充実を図る。特に、生徒の意欲の向上に結びつく日常の評価活動の工夫・改善に取り組んでいく。また、面談や講演会にあたっては、ねらいを明確にした事前・事後の指導を充実させる。 (2)展示会やファッションショー等の学習成果を発表する場をさらに充実させるとともに、産業界との連携を通して外部の大人たちと接する機会を多く設定する。また、海外研修に向けて語学力と表現力の育成に努める。 (3)生徒会活動や学校行事の充実・改善に取り組み、他者を尊重できる態度を養う。また、社会貢献活動に積極的に参加させる。
		加カリキュラムによる相互援助体制を行うことで、助け合いの心を育てる。	A		
		面談や多彩な講演会により、生徒個々の「志」の形成を図る。	B		
		展示会やファッションショー等の学習成果を発表する場をさらに充実させる。	A		
	志と高い倫理観や社会性、道徳性を育て、これからの社会や地域に有為で信用信頼される人間づくりを目指す。	地域連携を通して外部の大人たちと接する機会を多く設定する。	A	A	(1)観点別評価の改善とさらなる充実に取り組み、教科横断的視点によるカリキュラムマネジメントの充実を図る。特に、生徒の意欲の向上に結びつく日常の評価活動の工夫・改善に取り組んでいく。また、面談や講演会にあたっては、ねらいを明確にした事前・事後の指導を充実させる。 (2)展示会やファッションショー等の学習成果を発表する場をさらに充実させるとともに、産業界との連携を通して外部の大人たちと接する機会を多く設定する。また、海外研修に向けて語学力と表現力の育成に努める。 (3)生徒会活動や学校行事の充実・改善に取り組み、他者を尊重できる態度を養う。また、社会貢献活動に積極的に参加させる。
	海外研修に向けて語学力と表現力の育成に努める。	A			
	生徒主体の学校行事等を通して、他者へ貢献する態度を育成する。	A			
	本校の伝統と地域で果たすべき役割を考えさせ、個々の言動に対する責任を自覚させる。	B			